

第 43 回 三条市小中一貫教育推進委員会 会議録

1 開会宣言 令和 7 年 2 月 18 日（火） 午後 2 時 30 分

2 場 所 三条市役所栄庁舎大会議室

3 出席状況

(1) 出席委員 雲尾 周 委員長、高橋 喜一郎 副委員長
渡邊 伸明 委員、小湊 雄一 委員、田村 和弘 委員、
小林 要 委員、小澤 邦夫 委員、高綱 誠 委員、
高橋 雅博 委員、金子 純一 委員、住吉 英明 委員、
舩良 靖宏 委員、中村 正之 委員、野口 典弘 委員、
浅間 正直 委員、目黒 聡 委員、
長谷川 洋志 委員、(17 人)

(2) 欠席委員 新飯田 正 委員、藤田 芙美 委員（2 人）

(3) 事務局職員

教育長 高橋 誠一郎

教育部長 平岡 義規

教育総務課長 野水 裕晃

子育て支援課長 小林 正芳

学校教育課長 相田 覚

教育センター長 森田 雅弘

統括指導主事 畑 宏幸、指導主事 武石 和仁、
指導主事 高橋 将也、指導主事 藤井 佳介、
特別指導主事 中村 義則、特別指導主事 和田 薫、
特別指導主事 浅井 弘行

(4) 傍聴者 なし

4 会議次第

(1) 開会

(2) 委員の委嘱

(3) 委員長、副委員長の選出

(4) 開会のあいさつ

(5) 報告

(6) 議事

(7) その他

(8) 閉会のあいさつ

(9) 閉会

5 会議の経過及び結果

(1) 開会

(2) 委員の委嘱

(事務局 武石)

「次第2 委員の委嘱」、今年度第1回目の推進委員会でお伝えしましたとおり、「三条市小中一貫教育推進委員会設置要綱」第4条により、委員の任期は2年となっております。ここにいられる皆様は、令和5年1月1日～令和6年12月31日までの期間の委員となります。したがって、昨年12月31日で委嘱期間を満了し、令和7年1月1日からは、新たな委員選出となります。同設置要綱には、「任期については、再任を妨げない」となっているため、引き続き皆様に委員をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、「同設置要綱」第4条の規定により、任期更新に伴う委員の委嘱を行います。

はなはだ失礼とは存じますが、委嘱状を机上にお配りいたしました。どうぞ、引き続きよろしくお願いいたします。なお、4月になり現在の役職が交代される場合は、後任の方から残任期間を担っていただくこととなりますので、引継ぎについてあわせてよろしくお願いいたします。

(3) 委員長、副委員長の選出

(事務局 武石)

会に先立ちまして同設置要綱第5条の規定により、委員長、副委員長の選出を行います。事務局一任でよろしいでしょうか。

(一任の声)

事務局に一任というお声をいただきましたが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、事務局提案として、委員長につきましては、引き続き雲尾 周様に、副委員長につきましても引き続き、高橋 喜一郎様にお願いをしたいと存じます。皆様、いかがでしょうか。御承認いただける方は拍手をお願いします。

(拍手多数)

それでは、委員長 雲尾様、副委員長 高橋様、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局が委員長、副委員長のプレートを置く。)

(2) 開会のあいさつ

(雲尾委員長)

皆さん、こんにちは。大変な雪の中、皆様お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今、委員長に再任いただきました雲尾 周です。よろしくお願いいたします。今年は2025年ということで、学習指導要領でいうと10年サイクルの折り返しの年となります。既に次の2030年の新学習指導要領に向かって検討を始めて

いるところです。その中で、特に話になっていることは、やはりカリキュラム・オーバーロードという形で内容が多すぎるものをどう減らしていくのか、それをまた授業にどう落としていくのかについて話をされているところです。その関係で言いますと、小学校学習指導要領と中学校学習指導要領で別々に考えるのではなく、小中一貫教育で考える中で、どのように子どもたちに教える内容を精選しながらやっていくという観点が必要であり、それは、すでに三条市において、小中一貫教育カリキュラムの中で考えているところですので、それを進めていけることになるかと思います。

ここまで歩いてくる途中で、コンビニの裏にカレー屋さんができていて、そこに寄りましてところ、栄中央小学校3年生のお礼の手紙が置いてありました。子どもたちは、学校の中で学びながらも、こうして地域の中に出て、地域の方々と結び付いた教育はされていました。このように、子どもたちは外に出ていき、それを受け入れる地域の人たちがいて、それで、教育が進んでいるということを、新しいお店でも感じたところです。地域に根ざした小中一貫教育を進めていけますよう、この委員会で活発な御審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 報告

(事務局 武石)

それでは、これから、議事、報告に入ります。ここからの進行を、雲尾委員長にお渡しいたします。雲尾委員長、よろしくお願いいたします。

(雲尾委員長)

最初に、出席者数の確認を事務局お願いします。

(事務局 畑)

本日の出席者数でございますが、19人の委員のうち2名の欠席です。「三条市小中一貫教育推進委員会設置要綱」第6条第2項の規定により、半数以上の委員の出席がありますので、本会議は成立しております。

(雲尾委員長)

第42回 小中一貫教育推進委員会での検討内容の概略について事務局、報告をお願いします。

(事務局 畑)

前回の第42回 小中一貫教育推進委員会での検討内容の概略を報告いたします。

資料 No. 1 を御覧ください。(以下、資料に沿って説明)

第42回 小中一貫教育推進委員会検討内容概略について (資料No. 1、別紙)

(雲尾委員長)

それでは、ただいまの報告につきまして、御質問、御意見等があればお願いします。

〔質疑なし〕

ないようですので、続いて次第の「6 議事」に移ります。

「令和6年度小中一貫教育アンケート（共通項目）の結果について」事務局から説明をお願いします。

（事務局 和田）

「令和6年度小中一貫教育アンケート（共通項目）の結果」についての説明資料No. 2をご覧ください。（以下、資料に沿って説明）

〔説明後〕次年度以降も本年度と同様の形でアンケートを実施する方向を承認していただきたいと思います。

（雲尾委員長）

ありがとうございました。それでは、御質問、御意見等があればお願いします。

〔質疑等なし〕

（雲尾委員長）

それでは、P. 6のIの「2 学年・学校を越えた交流活動の保護者の認知度」について、同一集団で比較した場合、小6から中1に上がった保護者が11ポイント、約50人減少していることについて、同一集団での比較ですが、多分、小学生から中学生になれば減るだろうなっているのは予測されますが、例年に比べて減り具合としては、同じくらいですか、多いくらいですか。

（事務局 和田）

具体的な数値は、ここに持ってきていませんが、去年より少し下げ幅が大きいという感じです。今回、5ポイント減ったものを特徴的に挙げましたが、去年はそこまで下がってはいなかったです。学校で、取り組んでいることが保護者に認識されていないところが、下げている原因なのかと思います。

そう考えると、広報活動の工夫が必要かなということで、ここに入れさせていただいております。

（雲尾委員長）

ありがとうございました。小中一貫教育になったら、完全に中一ギャップがなくなるというものでもないわけですが、その中でも緩やかになっていく中で、今年は変わってしまったという話になりました。

これらの報告を基に、来年度の改善を進めていただければと思います。

（雲尾委員長）

ただいまの報告につきまして御質問御意見がありましたらお願いします。

〔質疑等なし〕

（雲尾委員長）

それでは、いただいた御意見等を踏まえ、来年度に向けて改善をお願いいたします。また、次年度も同じ形でアンケートを行っていくということでありますが、御了承いただけますでしょうか。

〔了承〕

それでは、事務局で予定した案件は以上です。委員の皆様で協議すべきことがございましたらお願いいたします。

〔協議案件なし〕

（雲尾委員長）

以上で、協議を終了し、進行を事務局にお返しします。

（事務局 武石）

雲尾委員長様、協議の進行ありがとうございました。

次に、「次第7 その他」に移らせていただきます。

6 その他

(事務局 武石)

各学園の小中一貫教育の評価と課題について資料 No. 3 の三条市小中一貫教育9 学園取組概要報告を基に説明御紹介をお願いします。恐れ入りますが、各学園3分程度をお願いします。

(1) 各学園の小中一貫教育の成果と課題について（各学園から）

各学園からの説明 資料 No. 3

(事務局 武石)

ありがとうございました。それでは、先程の学園の報告について、御意見や感想がありましたらお願いいたします。

(高橋副委員長)

それでは一つお願いいたします。今ほどは成果と課題をありがとうございました。様々な成果を聞かせてもらって学びになるなと思っています。その中で小学校、中学校の連携交流の話はとても進んでるんだなと思っているんですけども、小中一貫教育カリキュラムを見た時に、私自身も小中一貫教育カリキュラムを当学園で、どこまでどうやって作ると効果的なのかということを少し悩んでいるものですから、聞いてみたいなと思います。小中一貫教育カリキュラムの成果を眺めさせてもらいますと、ただの郷学園がとても推進されていると思うので、小中一貫教育カリキュラムをこんなふうに作って、こんなふうに効果があるという辺りをもう少し具体的に教えてもらえたらありがたいです。よろしくお願いします。

(中村委員)

ありがとうございます。今年度、市教委からキャリア教育の小中一貫教育カリキュラムを新しくするという事で指示をいただきました。各学校がキャリア教育の視線に立って何をしているのかということは、実は今回作ってみて初めて分かることが多々ありました。そもそもこの活動をどう捉えてるのだろうか、生活習慣を改善する取組としての睡眠時間とか学習時間など、当学園では「生き生きパワーアップ週間」と呼んでいますが、その活動をキャリア教育に位置付けている学校と位置付けていない学校がありました。学園全体で共通でやっていたことは、それは、やはりキャリア教育の視点からは大事だと再確認しました。今あるものの捉え直しができ、それがどういうふうに関わってるのかということ、カリキュラムの作成をとおして、分かったところが一つ大きな成果だと思います。新しく何かをするというよりも、今やってきたことを小中一貫教育の視点で整理してみて、新たに価値を認識しました。どうしても職員も代わっていきますので、当時やってたことが少しずつ薄れていっているところもあるかと思います。そのところで改めて教育活動のねらいや価値を再認識でき、それを子どもに伝えられるというところが大きな成果だったと思います。

(高橋副委員長)

ありがとうございました。その価値をそれぞれか捉え直したものがここに書いてあって、ここまで小学校でやりましょうとか、中学校では、こうやっていきたいと思います。分かりました。このカリキュラムは、各教科でもあるのですか。

(中村委員)

はい。あります。

(武石指導主事)

他にありますでしょうか。御意見等ありましたらお願いします。

(渡邊委員)

お願いいたします。各学園の発表、ありがとうございました。最初に雲尾委員長からお話がありましたが、2030年の指導要領改訂に向けての動きがこれから出てくると思います。カリキュラム・オーバーロードなどの話もありました。そして、交流を増やしてほしいという協議会からの声等あって、様々難しいところで学校現場が直面してるのではないかなと思います。今、ただの郷学園からありましたが、今やっていることの価値を見直して価値付けていく、捉え直していくということがやはり必要になるのではないかなと思います。新しいことを積み重ねていくだけでは、やはりカリキュラム・オーバーロードも進む一方ですので、そこを見直して、今、授業時数の見直しという話も出ていますので、その中で今やってる活動を増やしていくのか減らしていくのか、そういったところがやはり考える視点にはなるのではないかなと思いますし、大崎学園の中で、引継の視点もすごく必要だという話がありました。

職員は、長くても5年で入れ替わっていくかと思います。その中でこれまでの価値を見て、引き継いでいるのか。職員の中で何でこれをやっているのかというところが分からないまま進んでいるところが多いのではないかなと感じています。組合の方に多くあがってくる声として、交流するための話合いの場が非常に多くてそれが負担であるという声がとてもあがってきています。どうしてこの活動をしているのか、これをする事でどういう良さがあるのかというところを現場が噛み砕けていないのではないかなということを感じています。最初もお伝えしましたが、価値の見直し・捉え直しの部分を現場職員がしっかり感じられるところが必要なのかなと思います。また、現場の声、実際に動いた職員の声が、このようなところに出てくるとより見直していける視点になるのではないかなと思います。

(小淵委員)

今ほどは御発表ありがとうございました。少し議題が前後するかもしれませんが。全体のアンケート結果の中で、「授業を楽しんでいるか」という小学生と中学生の設問について、令和5年度と令和6年度でデータに変容があったことを最初にお示しいただきました。なぜ良くなったのかや、なぜ少し落ち込んだのかというところの要因は何であったのかというところを、個人的には皆様にお聞きしてみたいなと思っていました。つまり、数値が良くなっているということは、きっと何かしら素晴らしい取組があったのではないかと拝察し、落ち込んでいるとしたら先生方が難しさを感じられているところがあるのではないかなと思っています。その辺りをお聞きでき

ればありがたいと感じたところです。

後半の各校園の取組についてですが、それぞれの学園の目指す子どもの姿に立ち返って成果と課題を考察していただいているものが多く、すばらしいなと思って聞いておりました。例えば、18 ページに瑞穂学園さんの成果と課題が述べられていて、小学校 6 年生では進学による人間関係の不安を安心に変えることができた。中学校 3 年生では先輩としての自覚が生まれた。一方で、対話的な学びであったり深い学びにはまだまだ課題があると述べていただいています。同じように 24 ページに三条おおじま学園さんがまとめていただいたものがありますが、防災教育を通して、児童生徒の主体的な学びを促すことができた。振り返りに地域の良さを再発見する児童生徒の姿があったというふうにまとめていただいている、子どもの姿で成果を示していただけると、こういう姿を目指して学園として取り組んでいたんだなということがよく分かり、このような成果の示し方は、大変価値があるなと思います。全ての学園ではないですが、難しさを感じてるところに、やはり子ども同士の関係性や、子どもがどうやって関係をつくっていけばよいかというところを課題として示していただいている学園も多いのかなと思います。個人的な考察ですけれども、先ほど申し上げた「授業を楽しい」と感じるかどうかというこのデータには、その教科の面白さももちろんあると思いますが、同じ学級の仲間と学んでいると楽しいなと思える、その側面も結構小学校と中学校では多いのではないかなと考えています。つまり、その教科で取組を進めていただいているというところはかなり大きいと思うので、例えばその学級として子どもたちが安心して学べるとか、どんな仲間の考えも共感的に聞けるなどのところが、また一段と進んでいくと、「授業が楽しい」と感じるという成果にもつながってくるのではないかと考えます。評価での、小中一貫教育のつながり、それから学級づくりでの、小中一貫教育のつながりということで、別のアプローチの仕方もあるのかなと考えました。

(2) その他

(事務局 武石)

ありがとうございました。それでは参加された委員の皆様から、全体を通して何かお気付きの点がございましたらお願いします。

(田村委員)

ちょっとお願いいたします。地域とのつながり、それから故郷への愛着との関連で、今年はキャリア教育に注目をしています。来年度から「キャリア教育バンク」が立ち上がるということで、中学校では、どこの学校でも職場体験や職場見学があるかと思っています。キャリア教育バンクが学校へどのような形で支援をしていただけるのかをお聞かせいただければと思います。例えば、職場体験のマッチングであるとかプログラムのなところなど、その辺りを教えていただけるとありがたいです。

(事務局 武石)

ありがとうございました。では、私の方からお答えさせていただきます。詳しくは 3 月の校長会でお話しさせていただきますが、今、田村委員がお話しいただいたとお

り、特に三条市を中心として地元の事業者の方からまさに今、登録をいただいております。今日現在で 37 事業者が御連絡いただいております。

今は、まず登録者を増やすという段階になっております。年度当初、4 月に、各学校の職場体験活動を担当する方や総合的な学習の主任の方々を対象にしての説明会を行います。今年、一年こういう形で活用していただくという説明をしていきたいと思っています。大まかなところでは、5 月の中旬ぐらいに各学校から事業者の要望を挙げていただき、事業者の方の要望を市教委の方である程度マッチングをします。6 月以降の活動では、学校と事業者様と一緒に協力をしてくださいという形で、私たちの方で周知していこうと考えています。もちろん、その中で最終的には学校と事業者さんの方で綿密な詳しい打合せをしていただく形でお願いしようと考えています。

今年度、中学校と義務教育学校後期課程の職場体験にご協力いただいている事業者が市内全体で 180 を超えるぐらいの数です。その事業者全てが御登録いただけるかどうか分かりません。学区内事業者とすでにやってるんというところは、まず学校と御協力いただくという形になりますが、この数を増やしていく中で、中学校だけではなくて、小学校での出前授業や職業講話などに、このバンクの登録された事業者様から学校に来ていただきたいと思います。あとは職場に出かけて行くというような流れを作っていきたいと考えておりますので、是非また学園運営協議会の方など様々なところで、各学校学園からも地元の事業者様に御登録の方も呼びかけをしていただければと思います。

(田村委員)

はい、大変ありがとうございます。本校では、職場体験を 1 日から 2 日ぐらいに少し延ばそうという計画もあり、キャリア教育バンクとも連携しながら、職場確保ということで頑張りたいと思います。

(事務局 武石)

ありがとうございます。他の委員の皆様からいかがでしょうか。それではせっかくの機会ですので、地域保護者の代表の皆さんからも御感想をいただければ幸いです。浅間委員様お願いできますでしょうか。

(浅間委員)

一応、職場体験受けていましたので、以前、まあ 3 回ぐらい行なわないと子どもの方向付けができないのではないかということを話しさせてもらいました。もし、体験学習の授業になりましたら、一つ入れていただければと思います。

(事務局 武石)

ありがとうございます。目黒委員様、お願いします。

(目黒委員)

教育に関しては全く素人でありまして、皆様がやっただけに本当に喜んでいるところであります。感謝しています。郷土を担う子どもが少なくなっているということを、どの学校からもお聞かせいただきました。そんな中で子どもたちにも、もっと子どもを生み育てる大切さを教育の中に取り入れていただいたら嬉しいと

私の勝手な希望であります。もしできるならお願いしたいと思います。

(事務局 武石)

ありがとうございました。長谷川委員、お願いします。

(長谷川委員)

どの学園も見直しとか新しいことを取り入れられて、とてもすばらしい取組をもされていると感じました。本当に一年間、御苦勞様でした。その取組が、先ほどアンケートに説明があった成果につながっているんだなと思いました。アンケートの中で、肯定的評価が約8割を超えているという項目が多くて、この3項目についてもよい成果が出てるということで拝聴させていただきました。

その中で、同一集団を比べてみたら、肯定的評価はもちろん8割程度なんですが、「はい」と自信をもって答える子どもたちが少し少ないということが気になっていきます。自信をもって「はい」と答えるような子どもたちがますます増えていくような取組をお願いします。

(事務局 武石)

ありがとうございました。

(高橋教育長)

一言御礼とまた感想を述べさせていただきたいと思っております。

まずもって、令和6年度の総括を本日いただいたと思っております。それぞれの学園で、本当に献身的なお取組をしていただきながら、子どもたちを育む小中一貫教育をより発展させていただいていることに深く感謝を申し上げます。本当に令和6年度一年間大変ありがとうございました。また、地域や保護者代表の皆様、このような形で小中一貫教育推進委員会に御多用の中、御出席をいただきましたことに御礼申し上げます。ありがとうございました。そして、雲尾委員長、高橋副委員長からも運営をしていただく中で、推進委員会のすばらしい取組をバックアップしていただいたと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。引き続き来年度も御支援御鞭撻の程お願いを申し上げます。

三つ感想を述べさせていただきます。一点目ですけれども、アンケート内容についてであります。これは三条市全体のアンケートであります。平均値が載っているわけですので、これとそれぞれの学園学校がどのように違いが出ているのかというのをしっかりとそれぞれの学園・学校で検証していただくことが、より一層成果を上げる一つの大きな材料になるというふうに思います。あくまでもこれは平均値でありますから、繰り返しますけれども、学園・学校でどのような伸びがあったり、あるいは弱点が生まれていたりというものがあるのかということ、ぜひそれぞれ学園・学校で分析していただいて、次年度の活動に生かしていただきたいと思います。

二点目につきましては、言葉のあやみなどところもあって、語弊を恐れずに申し上げますけれども、「地域」という言葉が何度もこの会で出てきたと思います。私たちも「地域に出て行って」とか「地域の皆さんの」という言葉を使いますが、子どもたちの概念形成の中で、発達段階によって「地域」というものの受け止め方は全然違うは

ずです。例えば、小学校一年生の子どもたちに「地域に行きましょうね」と言うのと、高校一年生に向かって、「皆さんの生まれ育った地域を発展させよう」と言うのでは、全然地域の概念は違っています。どの「地域」を想定して、どの子どもたちに「地域」という概念をもたせて地域に出て行かせようとするのか、あるいはその地域で何を学ばせようとするかということそれぞれの学校学園で明らかにしていただきながら、教職員のしっかりとした認識をもちながら活動していただくということが、私は子どもたちにとってはとても大事なことなんだろうと思います。その地域に出て行って、当然子どもたちを育てるための地域学習ですから、子どもたちは、こういう地域のこの方々と出会ったんだと、そしてこの方々からこんなことを教わったんだと、そしてまた自分がこの地域の皆さんを喜ばすことができた、その人たちに笑顔を与えることができたということ、どれだけフィードバックできるかということが大きなポイントなんだろうと思います。「地域」というものが、一体どういう立ち位置で子どもたちの目の前にあるのかということ、ぜひ、しっかりと教職員の皆さんで共通理解していただきながら、地域学習に取り組んでいただきたいと思います。もう一つは、これは今ほど御発言にあった内容にもつながりますが、地域学習やさまざまな行事がビルドアンドビルドでは、やはり絶対パンクしてしまうわけですから、当然のことながらスクラップしていかなければいけないものもあるわけです。そのスクラップアンドビルドの中で、どういう学びを地域の皆さんからいただくのかということ、教職員の皆さんとよくよく理解していただくことが教職員の皆さんのやりがいにもつながってくるだろうと思います。このことについては、また折を見て、校長会や学園長会議等で、また教育委員会からお示ししていかなければならないものかなと思っております。

最後、三点目です。冒頭に雲尾委員長から改めて御指摘をいただいたことが、私、本当に有り難かったなと思いますが、やはり小中一貫教育の魂はカリキュラムだと思います。単なる小中連携活動ではありません。なぜ小中一貫教育という言葉で三条市が取り組んでいるのか。これはやはりカリキュラムが命だと思います。どのように系統を立て、9年間を捉えながらカリキュラムをどうつくり上げるのかということが、小中一貫教育の命であり、今、私は教員としてこのカリキュラムのこの部分を担っているんだという認識がなければ、小中一貫教育の中での教職員のやりがいも生まれないうわけであり、ぜひ、教職員の皆さんにやりがいをもっていただくためにも、自分がやっている授業や活動が、カリキュラムのどこに位置付けられているのかということ、しっかりとそれぞれの学園の中で明確に共有できるとすばらしいと思っております。大変長くなって恐縮でしたが、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

8 閉会のあいさつ

(事務局 武石)

ありがとうございました。それでは閉会のごあいさつを高橋喜一郎副委員長様よりお願いいたします。高橋様、よろしくお願いします。

(高橋副委員長)

皆さん、ありがとうございました。まとめていただきましたアンケートの成果と課題から学ばせてもらいましたし、各学園の発表からも学ばせてもらいました。また、委員の方々のお話からもいろんな御示唆をいただきました。ぜひ、来年度以降にまた生かしていきたいなと思っています。

終わりのあいさつですが、一ノ木戸ポプラ学園のことを少しお話しさせてもらいたいと思います。先ほど申しましたけども、悩み悩み進めているところです。特に悩んでいることが、今、当学園が行っている小中一貫教育は、子どもたちの成長にとってどう生きているのだろうか。それから、職員一人一人が、やはり小中一貫教育はいいよな、三条市に来てよかったな、というやりがいにつながっているのかということを考えていました。逆に言うと、そうなるような小中一貫教育での姿を具現していく必要があるなということで悩んでいます。

悩んでるだけではだめなので、何をしてるかといひますと、先ほど一ノ木戸ポプラ学園の代表から話がありましたが、まず共有すべき目指す姿が生きてるのかどうかという、率直に言いますと、全部の学園で目指す子どもの姿が掲げられています。地域と一緒に、保護者と一緒につくり上げたものなわけですけども、それが職員一人一人の中にあるのかということで見た時に、残念ながら弱まっているということが分かりました。やはり創り上げた方々は、自分のものとされていると思いますけれども、年が経つとそろそろ見直しの時期でもあります。そこでもう一度、目指す姿の文言は、変えませんが、それは具体的にどういう姿なのかということ、小学校、中学校職員全員で話し合いました。そして、五つの資質・能力としてまとめました。これが、またカリキュラムを作っていくスタートになるのではないかと思います。その姿を大事にしながら、カリキュラムの作成、見直をしていきたいと思っています。今日も様々なヒントをいただきましたので推進したいと思っています。今後、全ての学園が、またこういうところで情報交換をしたり、また教育委員会から御指導いただいたりしながら、子どもの成長にとって本当に意味のある小中一貫教育、職員一人一人がやりがいをもって進められる小中一貫教育を創っていききたいと今日改めて思いました。本当にありがとうございました。

9 閉 会

(事務局 武石)

ありがとうございました。雲尾委員長並びに各委員の皆様、本日は誠にありがとうございました。長時間に渡りまして御参加いただきましたことに重ねて御礼申し上げます。合わせて、本年度全3回の推進委員会を無事に開催することができましたことにも改めて感謝を申し上げます。以上をもちまして、第43回三条市小中一貫教育推進委員会を終了いたします。お帰りの際には事故等に気を付けてお帰りください。本日は大変にありがとうございました。

(閉会 午後4時00分)